# 2020 年度浦安キャンパス
# 大学院学生による
# 授業評価アンケート実施結果

浦安キャンパス大学院

授業評価アンケート専門委員会

## 1　アンケートの概要

### (1) 目的

浦安キャンパス大学院のファカルティ・ディベロップメント活動の一環として、本学の教育の質的改善に役立てることを目的とし、浦安キャンパス大学院学生による授業評価アンケートを実施した。

### (2) 実施期間

2020 年 8 月 10 日（月）～8 月 15 日（土）

### (3) 実施対象授業科目等

専任教員が大学院で担当している講義科目（特別演習、特別研究及び履修者 2 名以下の科目は除く。）のうち、履修登録者数が最多の 1 科目

### (4) 実施方法

Web ポータルシステムから回答

### (5) 集計結果分析及び授業改善策等について

授業担当教員はアンケート集計値を Web ポータルシステムから確認し、集計結果分析及び授業改善策等（学生向けコメントを含む。）を大学院授業評価アンケート専門委員会委員長に提出した。

※　授業ごとの集計結果分析及び学生向けコメントについては「2　集計結果分析（P.4～16）」のとおり。

### (6) アンケート項目

| | |
|---|---|
| 1 | あなたはこの授業 1 回につき、予習に平均何時間取り組みましたか |
| | 3 時間以上 / 2 時間以上 3 時間未満 / 1 時間以上 2 時間未満 / 30 分以上 1 時間未満 / 30 分未満 / ほとんどしなかった |
| 2 | あなたはこの授業 1 回につき、復習に平均何時間取り組みましたか |
| | 3 時間以上 / 2 時間以上 3 時間未満 / 1 時間以上 2 時間未満 / 30 分以上 1 時間未満 / 30 分未満 / ほとんどしなかった |
| 3 | 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか |
| | 強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない |
| 4 | 教員の説明は分かりやすかったですか |
| | 強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない |
| 5 | 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか |
| | 強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない |
| 6 | 教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか |

| |
|---|
| 強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない |
| 7　この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか |
| 強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない |
| 8　この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか |
| 満足 / やや満足 / どちらともいえない / やや不満 / 不満 |
| 9　この授業はあなたの大学院入学の目標達成に関してどんな意味を持ちましたか（自由記述）。 |
| 10　この授業について改善すべきと考えられる点があったら書いてください（自由記述）。 |

(7) アンケート実施科目及び回答者数

実施対象科目数：22 科目

回答者数：86 名〔対象者数（履修者数）117 名〕

| 研究科 | 科目名称 | 氏名 | 対象者数 | 回答者数 |
|---|---|---|---|---|
| 応用言語学研究科 | 応用言語学特論 | 遊佐　昇 | 7 | 5 |
| 応用言語学研究科 | 日本語教育方法特論 | 荻原　稚佳子 | 3 | 2 |
| 応用言語学研究科 | 日本語教育教材特論 | 片桐　史尚 | 4 | 2 |
| 応用言語学研究科 | 日本語教育学特論 | 木山　三佳 | 4 | 3 |
| 応用言語学研究科 | 言語教育評価特論 | 高田　智子 | 3 | 1 |
| 応用言語学研究科 | 一般言語学特論 | 嶋田　珠巳 | 5 | 3 |
| 応用言語学研究科 | 対照研究特論 | 中川　仁 | 5 | 3 |
| 応用言語学研究科 | 日本語学特論 | 佐々木　文彦 | 6 | 5 |
| 応用言語学研究科 | 日・英比較文学特論 | 菊地　翔太 | 3 | 3 |
| 経済学研究科 | ミクロ経済学特論 | 佐々木　康史 | 3 | 2 |
| 経済学研究科 | 実証分析特論 | 中澤　栄一 | 8 | 4 |
| 経済学研究科 | 消費税法特論 | 原　孝公 | 3 | 1 |
| 経済学研究科 | 社会保障特論 | 下田　直樹 | 4 | 4 |
| 経済学研究科 | 研究・論文技法演習 | 影山　純二 | 8 | 4 |
| 不動産学研究科 | 都市計画特論 | 周藤　利一 | 6 | 5 |
| 不動産学研究科 | 不動産研究方法論 | 斎藤　千尋 | 7 | 6 |
| 不動産学研究科 | 不動産数理の基礎演習 | 表　明榮 | 7 | 6 |
| 不動産学研究科 | 日本不動産事情特論 | 兼重　賢太郎 | 7 | 6 |
| 不動産学研究科 | 不動産経済学特論 | 宅間　文夫 | 5 | 5 |
| 不動産学研究科 | 都市空間マネジメント特論 | 前島　彩子 | 7 | 6 |
| 不動産学研究科 | 不動産会計特論 | 山本　卓 | 4 | 4 |
| 不動産学研究科 | 不動産企画・経営特論 | 中城　康彦 | 8 | 6 |
| 合　　計 | | | 117 | 86 |

## 2　集計結果分析

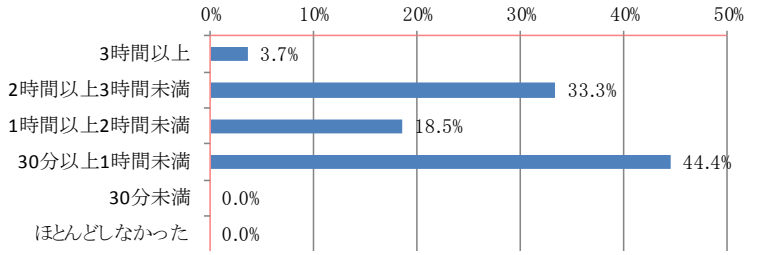
### （1）応用言語学研究科

【集計結果】

| | |
|---|---|
| 対象科目数(のべ) | 40 |
| 回答科目数(のべ) | 27 |
| 回答率 | 67.5% |

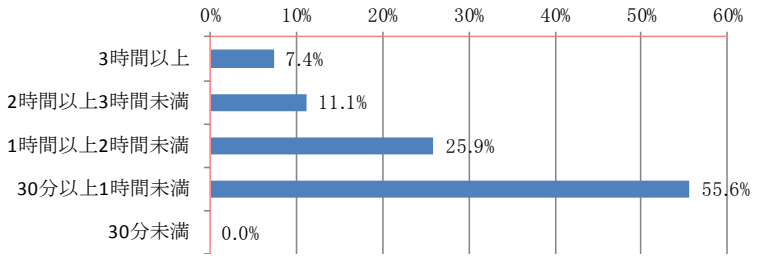
(1)　あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか

| | |
|---|---|
| 3時間以上 | 1 |
| 2時間以上3時間未満 | 9 |
| 1時間以上2時間未満 | 5 |
| 30分以上1時間未満 | 12 |
| 30分未満 | 0 |
| ほとんどしなかった | 0 |



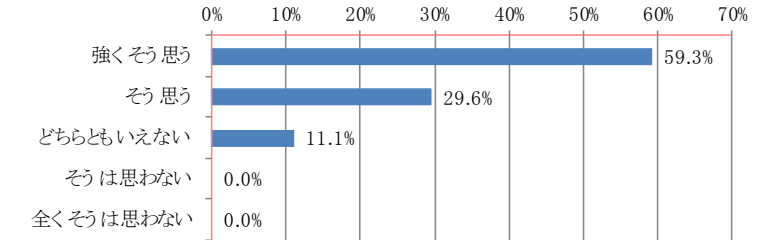

(2)　あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか

| | |
|---|---|
| 3時間以上 | 2 |
| 2時間以上3時間未満 | 3 |
| 1時間以上2時間未満 | 7 |
| 30分以上1時間未満 | 15 |
| 30分未満 | 0 |
| ほとんどしなかった | 0 |



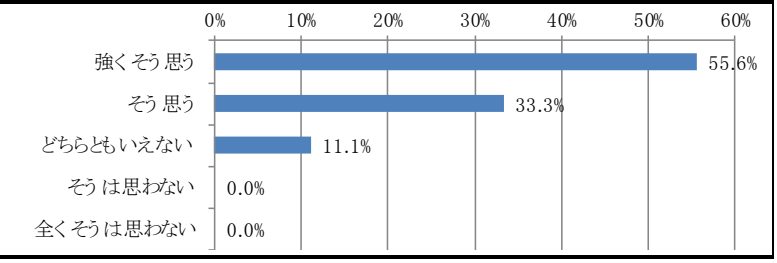

(3)　教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 16 |
| そう思う | 8 |
| どちらともいえない | 3 |
| そうは思わない | 0 |
| 全くそうは思わない | 0 |



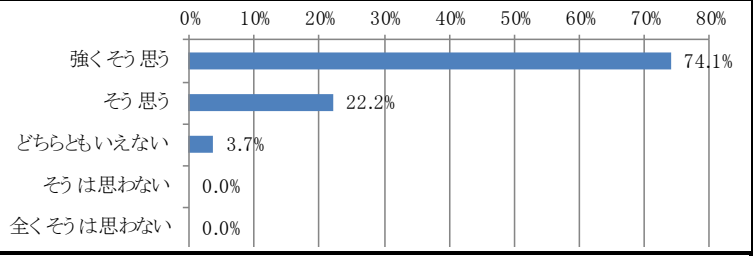

(4)　教員の説明は分かりやすかったですか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 15 |
| そう思う | 9 |
| どちらともいえない | 3 |
| そうは思わない | 0 |
| 全くそうは思わない | 0 |



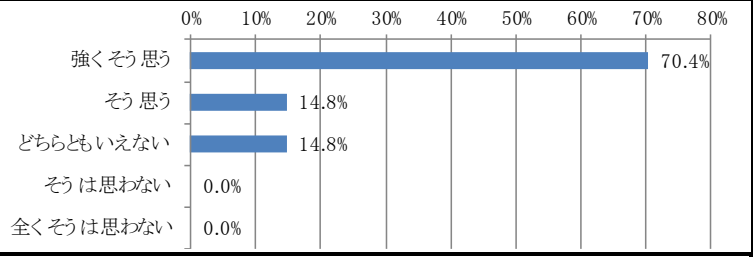
(5)　教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 20 |
| そう思う | 6 |
| どちらともいえない | 1 |
| そうは思わない | 0 |
| 全くそうは思わない | 0 |



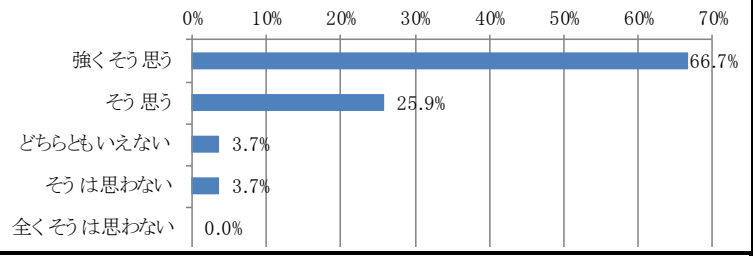

(6)　教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 19 |
| そう思う | 4 |
| どちらともいえない | 4 |
| そうは思わない | 0 |
| 全くそうは思わない | 0 |



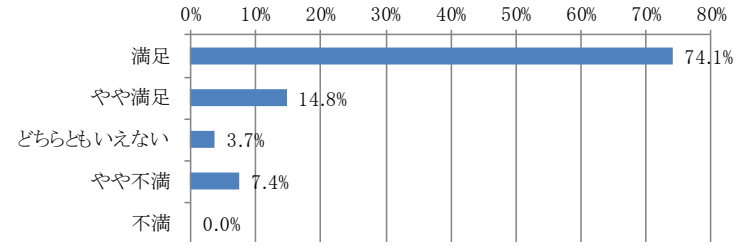

(7)　この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 18 |
| そう思う | 7 |
| どちらともいえない | 1 |
| そうは思わない | 1 |
| 全くそうは思わない | 0 |




(8)　この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか

| | |
|---|---|
| 満足 | 20 |
| やや満足 | 4 |
| どちらともいえない | 1 |
| やや不満 | 2 |
| 不満 | 0 |



【研究科の総評】

教員の授業に対する意欲、学生への対応については、約 96%以上の院生が肯定的な回答をして、高い評価を得ている。

しかしながら、院生の授業 1 回当たりの予習時間の平均をみると、1 時間以上 2 時間未満と回答した院生が 19%であり、前回調査からは大きく減少している。また、2 時間以上と回答した院生は 37%であった。一方で、1 時間未満とほとんどしなかった割合が 44%ほどである。前回調査と比べると予習時間は両極に分かれた感がある。

復習時間については、30 分以上 1 時間未満が 57%を占めており、授業後の復習をあまり行っていない状況は前回と同じである。事前学修と授業を経た後の研究の深化のためには、それぞれの授業後の復習が大切であることを学生に対して注意喚起をする必要がある。

さらに言えば、「授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか。」という設問に対して、「どちらともいえない」、「そうは思わない」と回答した院生は 7%程度おり、前回調査と比べて増加し多少は減少しているものの課題が大きい。

教員に求められるのは、院生の研究意欲の向上に意を用い、院生の研究の指針となる情報を的確に提供することと、何よりも教授者自身の日頃の授業における厳しい姿勢であることは論を俟たない。

（応用言語学研究科長　高野敬三）

【学生向けコメント】

応用言語学特論

大学院へ進学した学生は、自分自身の研究テーマにのみ強い興味を示す反面、その周囲、さらには異領域の研究と接触することが少なくなる傾向が見られますが、異なる領域の研究から大きなヒントや解決への道筋の示唆を受けることが少なくありません。広い興味を持っていてほしいと思います。

日本語教育方法特論

Ｚｏｏｍを使った授業で、対面授業と変わらない密度の濃い授業だったと思います。準備等、かなり大変な部分もあったと思いますが、その分、知識もしっかり身についたのではないかと思います。

課題内容について、多少個人差があったように思いますが、知識を得るだけでなく、それを応用できるようになるよう、今後は課題にもより一層力を入れてほしいと思います。

何かやり方などで希望などがあれば、申し出てもらいたいと思います。

日本語教育教材特論

皆さんがさまざまな提出物に果敢に挑戦した姿勢を高く評価しています。
そして慣れないオンライン授業でしたがよくやりました。この状況を保持し、後期に繋げましょう。

日本語教育学特論

後期は、遠隔型のリアルタイムオンライン授業を行います。お互いに理解を確認しながら進めていきましょう。

言語教育評価特論

遠隔授業という制約された状況下でしたが、教科書から地道に学び、学んだ知識を生かして課題に取り組むことができました。前期は既存の言語テストの分析を中心に進めました。後期は実際に言語テストを作成します。前期の言語テスト分析で学んだことを応用していきましょう。

一般言語学特論

ひきつづき、しっかり内容を理解しながら進めていきましょう。英文を読んで、専門性の高い内容を理解するのは容易ではありませんが、みなさんのふだんの準備と、授業への取り組みで、ずいぶんと吸収されるはずです。授業後はポイントを整理して自分の研究にどう活かせるかを考えるなどするといいですね。後期もどんどん読んで、いい勉強をしていきましょう。みなさんがそれぞれに学びと考察を深めることを期待しています。

対照研究特論

前期は Googlemeets よるオンラインの授業でしたが、後期は zoom による授業に転換し、板書が共有できるように心がける次第である。また資料の提示についても、画面上で提示できるようにしていきたい。後期のもわかり易く解説ができるよう心掛けるつもりである。

日本語学特論

皆さん毎回の議論に熱心に参加なさるので、わたしも授業を楽しむことができています。今後、さらに議論を深め、言葉に対する分析力、洞察力を深めていきましょう。

日・英比較文学特論

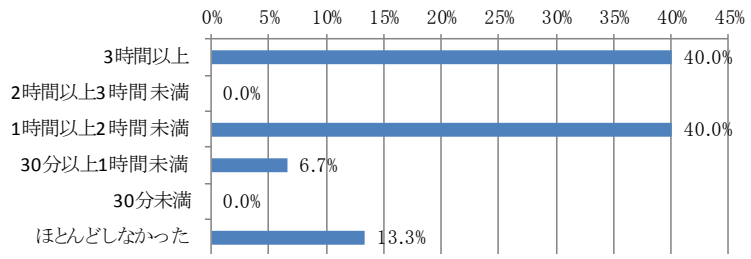
遠隔授業という慣れない授業形態でしたが、みなさんよく頑張って授業に取り組んでくれましたね。改めてお礼申し上げます。前学期は翻訳版を使って作品のあらすじを確認してもらいましたが、日本語の敬語表現等、思いがけないところからディスカッションの話題を見つけていただき、私自身とてもためになりました。後学期では原作の読解に挑戦しますが、引き続きよろしくお願いします。

（2）経済学研究科

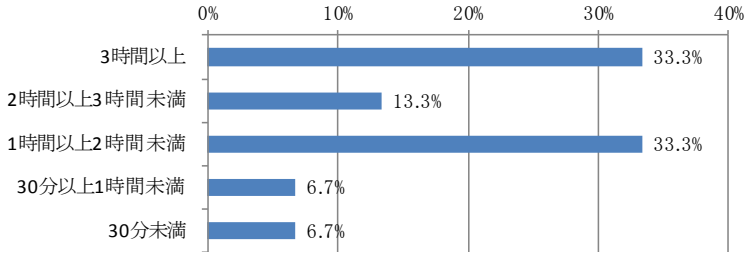
【集計結果】

| | |
|---|---|
| 対象科目数(のべ) | 26 |
| 回答科目数(のべ) | 15 |
| 回答率 | 57.7% |

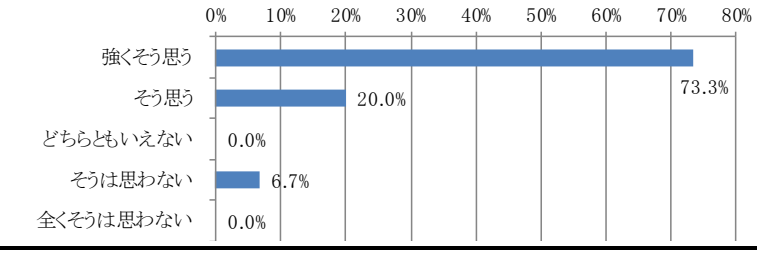
| (1)　あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか | |
|---|---|
| 3時間以上 | 6 |
| 2時間以上3時間未満 | 0 |
| 1時間以上2時間未満 | 6 |
| 30分以上1時間未満 | 1 |
| 30分未満 | 0 |
| ほとんどしなかった | 2 |



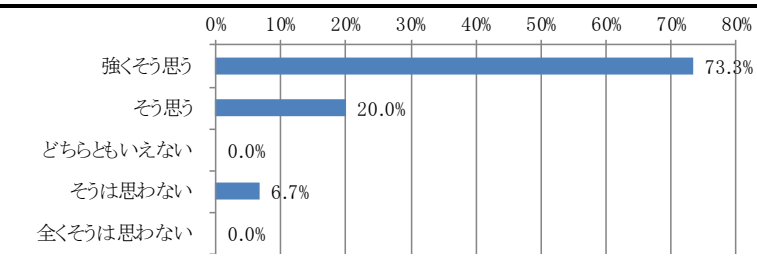

| (2)　あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか | |
|---|---|
| 3時間以上 | 5 |
| 2時間以上3時間未満 | 2 |
| 1時間以上2時間未満 | 5 |
| 30分以上1時間未満 | 1 |
| 30分未満 | 1 |
| ほとんどしなかった | 1 |




| (3)　教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか | |
|---|---|
| 強くそう思う | 11 |
| そう思う | 3 |
| どちらともいえない | 0 |
| そうは思わない | 1 |
| 全くそうは思わない | 0 |

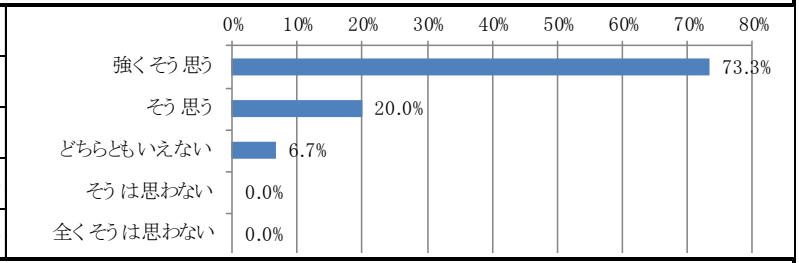



| (4)　教員の説明は分かりやすかったですか | |
|---|---|
| 強くそう思う | 11 |
| そう思う | 3 |
| どちらともいえない | 0 |
| そうは思わない | 1 |
| 全くそうは思わない | 0 |



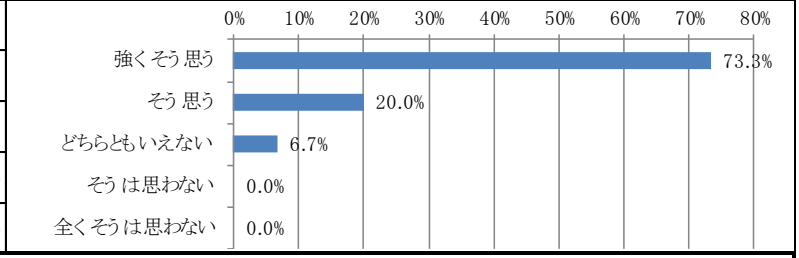
(5)　教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 11 |
| そう思う | 3 |
| どちらともいえない | 1 |
| そうは思わない | 0 |
| 全くそうは思わない | 0 |



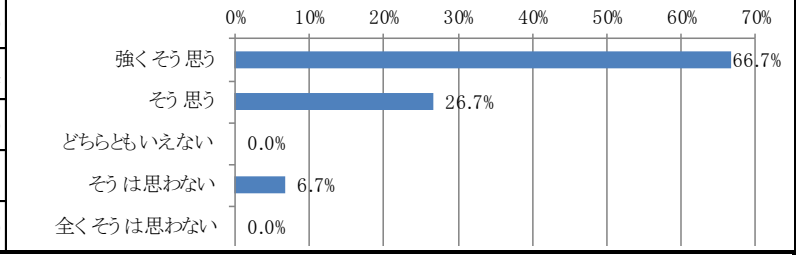

(6)　教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 11 |
| そう思う | 3 |
| どちらともいえない | 1 |
| そうは思わない | 0 |
| 全くそうは思わない | 0 |



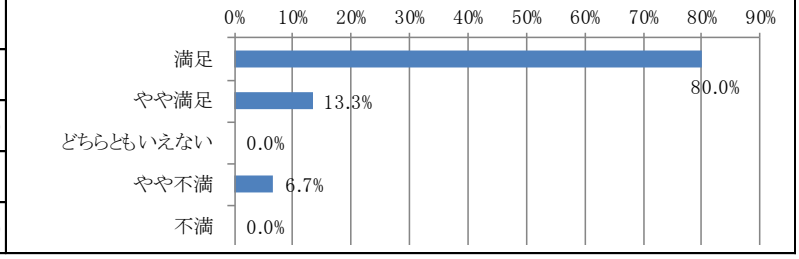

(7)　この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 10 |
| そう思う | 4 |
| どちらともいえない | 0 |
| そうは思わない | 1 |
| 全くそうは思わない | 0 |




(8)　この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか

| | |
|---|---|
| 満足 | 12 |
| やや満足 | 2 |
| どちらともいえない | 0 |
| やや不満 | 1 |
| 不満 | 0 |



【研究科の総評】

今回（2020 年度前学期）は、教室・研究室での対面式講義・演習も何回かはあったものの、後は教育支援システム manaba による遠隔オンライン授業を中心とする中での授業評価アンケートであり、実施の周知の成否や、遠隔授業に院生がどう評価・判断を下すのか、容易には見通せない状況にあった。

アンケート実施の周知は、主に、manaba のコースニュースや授業資料によって行ったが、必ずしも十分ではなかったのか、57.7%と、前回の 82.6%と比較して、相当低い数値にとどまった。やはり、院生といえども、実際に会って話さないと、なかなか伝えきれない面もあることが今回のケースからわかった。

まず、予習・復習時間をみると、「１時間以上２時間未満」と「３時間以上」がそれぞれ４０％の計８０％であり、研究を主たる目的とする院生の予習・復習時間として、この数字は高い評価に価する。しかし一方で、「30 分未満」や「ほとんどしなかった」院生も少数ながらおり、これは要指導の対象といえる。

次に教員の授業に関する項目では、総じて「強くそう思う」と「そう思う」がほとんどであり（両者を合わせると、いずれの項目も約 93%を占める）、院生が教員の授業に満足していることがわかる。しかし今回は、前回のアンケートでは皆無であった「どちらともいえない」や「そうは思わない」という回答も少数ながらおり、この理由を探る必要性もあるように感じた。

ただ、全体としてみると、多くの院生が自身の履修・受講する授業科目について概ね満足しているという評価結果であり、大変よかったと感じている。特に、授業を受講することで研究への意欲が増進したことは確かなようである。総じて意欲や熱意が感じられたという回答もほとんどで、大学院授業担当教員の努力も大きいものと思われる。

以上、調査した授業科目は、若干の課題もあるように思われるが、多くの院生から良好な評価を受けていると判断でき、これを今後も継続する努力が望まれると考える。

（経済学研究科長　下田直樹）

【学生向けコメント】

ミクロ経済学特論

今日、社会科学系の大学院生にとって、「人間社会の因果関係と政策の効果」を明らかにするためにはモデル分析とデータ分析は必須です。実証ミクロ経済学の基礎を大学院 1 年生の時に身に付けてください。因果関係を明らかにするためのモデルとデータ分析を通じて教育・保育、医療・保健、雇用・人事、家族、格差などの社会問題にアプローチしてください。

実証分析特論

毎回の課題をきちんと提出した履修者の人たちは、すでに統計的手法を用いた実証分析を、パソコンやスマホを用いて自力で行うことができる実力がついたと信じています。これからも、授業を通じて培った能力を活かして、社会で大活躍してくれることを祈念しております。

消費税法特論

税法関係科目は適正な税理士業務等に求められる税法解釈の能力とスキルの修得を目的としており、最終的には高い水準の修士論文の作成につなげることができるよう、引き続き、指導教員として心掛けたいと考えています。　そこで、後学期は対面式授業に移行させていただきたいと考えますが、併せて、授業内容及び方法について工夫・改善を図っていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

社会保障特論

前学期は教室での対面式授業も数回ありましたが、あとは遠隔方式で行わざるを得ませんでした。お互い、初めての長期にわたるオンライン授業の経験で、手探りの感もありましたが、皆さん、大変意欲的に課題に取り組み、締切りもきっちりと守り、頑張ってくれたおかげで、授業進行もスムーズでしたし、提出された課題の内容も良好で、楽しく読ませていただきました。後学期も引き続き、この調子で頑張ってください。

研究・論文技法演習

半期お疲れ様でした。「論文に慣れる」を目的に後期も頑張ってください。

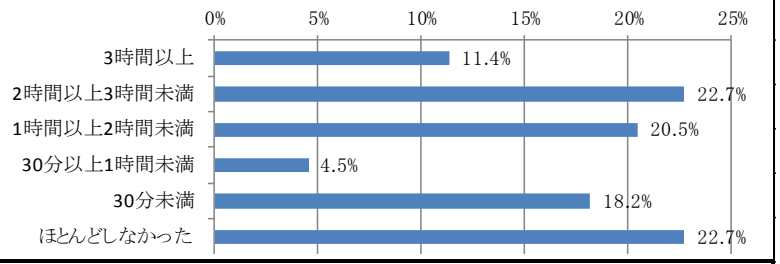
（3）不動産学研究科

【集計結果】

| | |
|---|---|
| 対象科目数(のべ) | 51 |
| 回答科目数(のべ) | 44 |
| 回答率 | 86.3% |

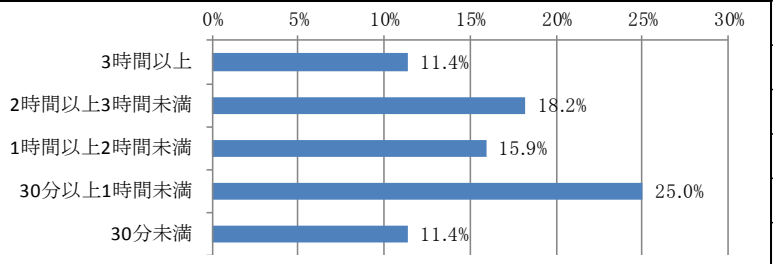
(1)　あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか

| | |
|---|---|
| 3時間以上 | 5 |
| 2時間以上3時間未満 | 10 |
| 1時間以上2時間未満 | 9 |
| 30分以上1時間未満 | 2 |
| 30分未満 | 8 |
| ほとんどしなかった | 10 |



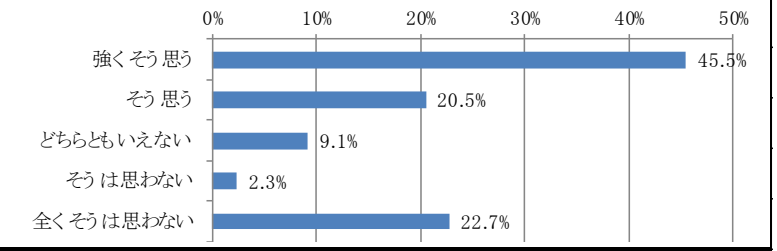

(2)　あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか

| | |
|---|---|
| 3時間以上 | 5 |
| 2時間以上3時間未満 | 8 |
| 1時間以上2時間未満 | 7 |
| 30分以上1時間未満 | 11 |
| 30分未満 | 5 |
| ほとんどしなかった | 8 |



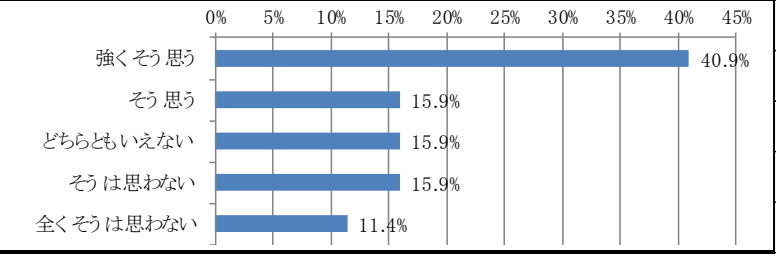

(3)　教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 20 |
| そう思う | 9 |
| どちらともいえない | 4 |
| そうは思わない | 1 |
| 全くそうは思わない | 10 |



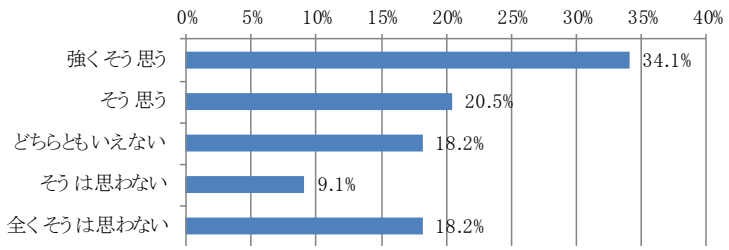

(4)　教員の説明は分かりやすかったですか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 18 |
| そう思う | 7 |
| どちらともいえない | 7 |
| そうは思わない | 7 |
| 全くそうは思わない | 5 |



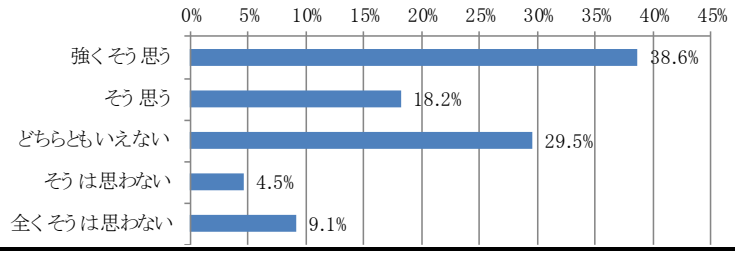
(5)　教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 15 |
| そう思う | 9 |
| どちらともいえない | 8 |
| そうは思わない | 4 |
| 全くそうは思わない | 8 |



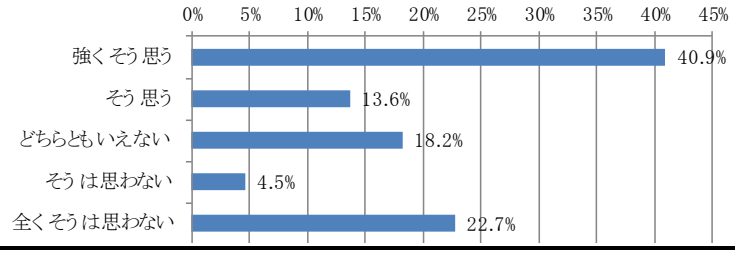

(6)　教員の学生への対応(質問等に対する対応)は適切でしたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 17 |
| そう思う | 8 |
| どちらともいえない | 13 |
| そうは思わない | 2 |
| 全くそうは思わない | 4 |



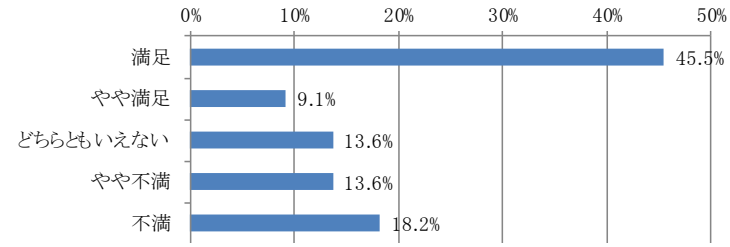

(7)　この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか

| | |
|---|---|
| 強くそう思う | 18 |
| そう思う | 6 |
| どちらともいえない | 8 |
| そうは思わない | 2 |
| 全くそうは思わない | 10 |




(8)　この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか

| | |
|---|---|
| 満足 | 20 |
| やや満足 | 4 |
| どちらともいえない | 6 |
| やや不満 | 6 |
| 不満 | 8 |



【研究科の総評】

回答率が 86.3%と昨年比約 10%高くなった点が評価できる。manaba による遠隔授業であり、授業とアンケートが連続的であったことも一つの要因と思料するが、学生の学修への関心が高くなったことを歓迎したい。

授業方法の変更もあり、アンケート結果には昨年度と際立った違いがみられる。

改善された点として、まず、予習時間について「2 時間以上 3 時間未満」が最も多くなり、復習時間について「2 時間以上」の合計が約 3 割になるなど、遠隔授業に対応して自律的学修が行われるようになった。次に、「教員による目的と目標の説明」、「教員の説明がわかりやすい」、「教員の授業に対する意欲や熱意」、「教員の学生への対応が適切」、「授業を受けたことによる研究に対する意欲の高まり」の各項目において、「強くそう思う」の解答が最多となった。対面授業では口頭による伝達や教授が主となるところ、遠隔授業では文字情報として伝えることより、聞き漏らしがない、複数回確認することができるなどを通じてこのような結果になったものと思料する。対面授業による口頭での教育が最善としてきたこれまでの考え方の見直しを迫る興味深い結果である。

反対に悪くなった点として、昨年度は 0%であった上記各項目に対する「そうは思わない」、「全くそうは思わない」に顕著な増加がある。わけても、「教員による目的と目標の説明」、「授業を受けたことによる研究に対する意欲の高まり」では 22.7%が「全くそうは思わない」と回答している。「どちらともいえない」という評価も増加しており、5 段階評価で否定的な評価の顕著な増加は、上記のとおり肯定的に積極評価する学生が増えたことと対象的である。

本件アンケートの対象学生は主として 2020 年度入学の 1 年次生で、入学までの背景が多様で、意欲、専門知識、パソコンスキル、さらには語学力などが様々である。これら背景の違いによる学修上の課題は、対面授業では授業の中で適宜補完可能な一方、遠隔授業では学生が自律的に解決することが基本となる。初めての遠隔授業であり、教員の準備の程度、科目による遠隔授業との親和性など、授業を提供する側が工夫し改善すべき点がある一方、授業を受ける大学院生はその基本的資質として、難題と思える事象と遭遇したとして、それを克服しようとする自律的な学修姿勢を保つことが肝要なこと、および、そのことによって初めて有意な修士論文の取りまとめが可能なことの認識を促したい。

（不動産学研究科長　中城康彦）

【学生向けコメント】

都市計画特論

オンライン方式ではなかったため、オンラインを希望する一部の学生の希望には添えませんでした。この点については、当初は manaba のオンライン方式が確実ではなかったこともあり、やむを得ない面があることを理解してください。上述の通り、質問や意見については、個別に対応しました。

この講義を契機に、都市計画についてより具体的に研究したい分野があれば、取り組んで欲しいと考えます。

不動産研究方法論

授業の内容が、そもそも初めての題材であるところ、教員にとっては、オンラインによる授業が初めての方法で、お互いいろいろ大変だっただろうというのが感想です。
オンライン、オンデマンド授業はマイナス面だけでなく、プラス面もあるのではないかと考えています。オンライン、オンデマンドであるため、教室で行う授業よりは資料が詳細だったのではないかと思います。論文を実際に書く段階になって、それが役に立つ資料になるのではないかと期待しています。時間はずれてしまいますが、後学期、大学にも登校しやすい状況になってから、わからなかった点など、改めて質問してもらえるといいです。

不動産数理の基礎演習

上記で指摘されたオンラインで授業の問題点、「社会で認めてくれるかに対する不安」、「理解しにくい問題に対してもっと対面授業で問題を解決したい」などについては本教員レベルで解決できる問題ではなさそうだ。早くコロナ禍が終息して正常な日常に戻って大学も本来の姿に戻ることを祈る。
「平易な言葉で、ゆっくり解説いただけるとありがたい」という指摘については、今後はこのような問題点を意識してより丁寧に講義を行うことで受講者にとってはもっと有意義な授業になるように頑張りたい。

日本不動産事情特論

はじめての大学院の授業が manaba を使った遠隔授業で、受講生のみなさんも大変だったと思います。私たち教員も不慣れな点があり、色々とご不便をかけたこともあったかと思いまが、まずは、前期、お互いによく頑張ったと思います。また、授業評価アンケートにご協力いただいた受講生の皆さん、ありがとうございました。遠隔授業は改善すべきところがまだまだあると思いますので、みなさんのご指摘を参考に、より良い講義にしていきたいと考えています。

不動産経済学特論

学生にとっては初めて学ぶ授業内容かつ遠隔授業形式であり，教員にとってはオンラインによる授業が初めての方法で，お互いに大変だったと思いました。遠隔授業は，授業を受ける学生にとっては，事前学修を十分にとる機会があり，タイムスケジュールを上手く管理できればメリットが大きい一方で，タイムスケジュールの管理が上手くできなかった場合は課題締め切りに追われ，十分が学修時間を確保できないデメリットがあると思います。少なくとも，今年度後期は遠隔授業を中心として，授業が実施されますので，タイムスケジュールを上手く管理できるようになって欲しいです。

経済学は，数学同様に積み重ねの学問です。講義を休んだ場合は，休んだ回のレジュメをきちんと読んで学修し，manaba 掲示板などを活用して分からない点を質問しておかないと，講義についていけません。その点を踏まえて，今後も経済学を学んでください。経済学は，身近な問題を取り扱っているので，興味を持って，積極的に学んでほしいと考えています。いつでも質問に答えますので，気軽に，経済学に関して質問してほしいと考えています。

都市空間マネジメント特論

遠隔システムのなかでのレポート発表のまとめお疲れ様でした。作業が複雑になった点あったと思いますが、大学院生として報告にまとめてもらえたことで、様々な考え方や取組方を共有でき有意義だったと感じています。

不動産会計特論

前期授業への参加、お疲れ様でした。本授業の内容が、皆さんの研究の進展に、少しでも参考になったところがあれば、うれしい限りです。良い修士論文を作成するためには、十分な時間をかける必要があります。M1 の早い段階から作業に着手して下さい。十分な学術文献(国際ジャーナルを含む)を収集、整理し、読み込みを行って下さい。このような地道な作業の延長上に、自分自身の研究課題を明確にするようにして下さい。今回は、遠隔授業となったため、院生の個別の研究テーマを反映したきめ細かい指導が十分できなかったことをお詫びします。ご自身の研究についての質問や相談があれば、いつでも対応しますので、遠慮なくご連絡下さい。皆さんの今後のご活躍を期待しています。

不動産企画・経営特論

今年の前学期は manaba による遠隔授業となりました。戸惑いもあったことと思いますが、次第に学修方法を各自で身に付けていったことは大きな成果です。大学院の学修や研究では能動的な姿勢や、状況を理解して課題を見つけ、その解決方法を自分で編み出すこと、いいかえると、オリジナリティが何よりも大切です。manaba を通じたこの授業で、それを体得していただいたことを何よりも評価します。

エクセル操作など、個別の学生の個別の質問については今後とも大歓迎です。すでに開示しているアドレスに質問や相談を寄せてください。日時を調整の上、対応いたします。